

---

# 伝説の魚

愛・武者修行Lv 1

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

伝説の魚

### 【Nコード】

N5140BA

### 【作者名】

愛・武者修行LV1

### 【あらすじ】

伝説の魚を探します。

『伝説』なぜ人々はその響きに魅了されるのだろうか。  
かく言う私もその一人だ。

17歳の私は、伝説の生き物にこの人生を費やしてきた。  
産まれた時の産声が、「UMA」だったらしい。

そして私は今、中国で見つけた古文書【伝説の生き物の住む場所】  
を読んでいる所だ。

その古文書のあるページに私は目が釘付けになった。

「カイワレ大根市の海に伝説の巨大魚がいるだと……」  
ちなみにカイワレ大根市とは私が住んでいる市だ。

私は、沸き起こる感情を押さえることが出来なかった。

すぐに、カイワレ大根市に住む伝説の生き物について、詳しくリ  
サーチを開始した。

その伝説の生き物は、なんとホオジロザメの頭と人間の肉が大好  
物だという。

なるほど、それならば見つかるはずがない。

私は、裏ルートでホオジロザメの頭をゲットし、知り合いの漁師  
に頼んでカイワレ大根市の海へと行くことにした。

必ず、伝説の巨大魚を釣り上げるぜ。私は、今まで様々な修羅場  
を潜り抜けて来た仲間【三木 鼠】を連れて行くことにした。

三木、あだ名ミツキーと一緒に古文書に記された場所に行き、ホ  
オジロザメの頭を針に付け海へと沈めた。

待った、実に長く待った。なかなか上手くいかないだろうとは思  
っていたが、まさかこれほどまでとは……。

もう、海へ出て3ヶ月が経つ。食料はもう尽きた。船長は死んで  
しまった。水も残り僅かだ。そろそろ潮時か。

その時 釣竿が大きくしなった。「これは、キターー」私  
の胸の中で、芸能人がガッツポーズをあげた。

三木と私は二人でエンヤコラ、ドッコイシヨと力を合わせた。

そして、ついに伝説の巨大魚の頭が見えてきた。私と三木は巨大網で、伝説魚を捕まえ、引き揚げた。

引き揚げられてもしばらくはホオジロザメの頭にしゃぶりついていたが、陸にあげられ呼吸が苦しくなったのが、ようやく引き揚げられたことに気づいたようだ。

「やあ」伝説の巨大魚はフランクに言った。

【伝説の巨大魚、木下さん】ついに見つけた。日本語が喋れる木下さんは苦笑いをして、言った。「いやあ、捕まっちゃったよ。ああ呼吸が苦しい」

古文書によれば、昔地上に住んでいた海好きの木下さんが、海で暮らせるように進化したという。

木下さんは、「もう、煮るなり焼くなり好きにしてくれ」と言って、着ていた魚の服を全て脱ぎ捨て全裸になった。

いくらお腹がすいているといっても流石に木下さんは食べたくなかった。なんせヒレ以外ほとんど人間なのだから。

私達が、木下さんをキャッチアンドリリースするか悩んでいると、「もらった」と木下さんが言った。

次の瞬間木下さんは、海へ目掛けてジャンプした。三木を脇に抱えて。

「三木、ミツキー」

「久しぶりの、人間の肉だぜ。今夜は木下家でパーティーだ」

木下さんは三木を連れて深い海へと潜って行った。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5140ba/>

---

伝説の魚

2012年1月14日08時47分発行